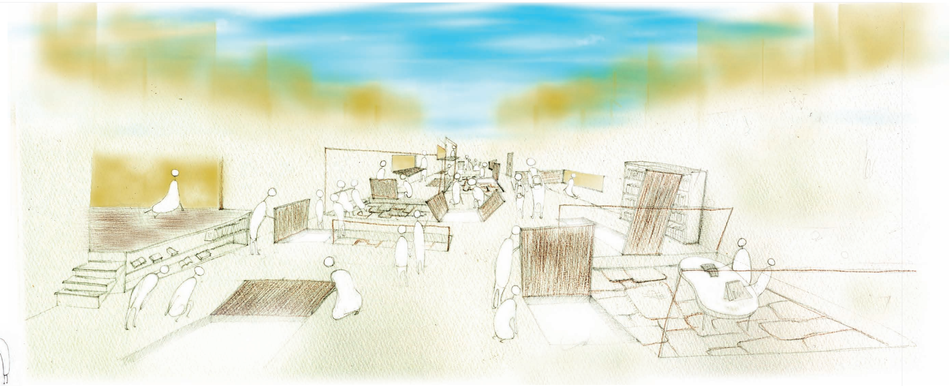
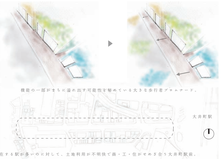
もう1つの改札



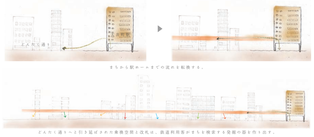
あらゆる鉄道の交通網をもつ都市は、小さな隙の集まりとも言える。電車から見える風景に見られながら、街や建物と多様につながりゆく都市へ期待感をよせていく。まちを空間する器を、乗物という不都合な時間の器に配置することで切り離されの駅と周辺環境を接続させることはできないかと考えた。引き延ばされた乗換空間と改札。あらゆるステージの「床窓」。鉄道利用客自身が地域をたどり巡りを時間が動くとき、その間に商・工・住の活動が湧き出る。

01.敷地



線路利用型・専用線乗降設計・線路をその周辺から切り離す一つの対比として、立地用途が不明瞭な商・工・住がゆるやかな大井町駅前。

02.提案



もうひとつの改札ゾーンまでの流れを転換する。

どんなに遠くへ引き延ばされた乗換空間と改札は、鉄道利用客がそもそも期待する器の器を作り出す。

03.床窓

改札とそもそもの時間を調和の器と、五感の空間がそもそもなかったものとの対比と、その間に調和をはかっていく。

鉄道利用客自身は地域の間間へと、そもそのロスを生活と作り出していく。

様式１

～人があつまる大井町駅前中央通りアイデアコンペ～

提 案 要 旨 説 明 書

■作品タイトル

もう１つの改札

■提案要旨

あらゆる鉄道の交通網をもつ都市は、小さな旅の集まりとも言える。電車から見える眺めに見とれながら、街や建物と多様につながる中で都市へ期待感をよせている。まちを発掘する器を、乗換という不都合な時間の隣に配置することで切り離された駅と周辺環境を循環させることはできないかと考えた。引き延ばされた乗換空間と改札、あらゆるスケールの「床窓」。鉄道利用客自身が地域をたぐり寄せる時間が動くとき、その麓に商・工・住の活動が湧き出る。

※なぜこのような提案としたのかという理由や、特に工夫した点、アピールしたい点などを自由に記載してください。